

課題名	次世代につなぐ「西海みかん」の産地の振興	振興局名	県北振興局
活動対象	ながさき西海農協かんきつ部会 連絡協議会	実施期間	平成28年度
<p>【対象の概要】</p> <p>1. 佐世保市南部で温州みかんを中心に生産、部会員数322名、栽培面積398ha、生産量は約10,000tで、県下の3割を占める。</p> <p>2. シートマルチ被覆栽培の全園実施と光センサーを使った果実の糖度による選別出荷で、「味っ子」「味まる」のブランドを確立、市場からの評価も高く、全国トップクラスの産地である。</p> <p>【課題設定の背景】</p> <p>1. 園地登録園制度とシートマルチ栽培管理の徹底による「味っ子」「味まる」のブランド商材の生産により近年売上を伸ばしており、近年の異常気象の中においてもブランド率は8割を超えている。</p> <p>2. 高齢化により部会数が減少する中、みかん生産量を維持するために農地を集約して省力化を推進する大規模な基盤整備を検討している。また、雇用労力の確保などの課題も多い。</p> <p>【活動目標】</p> <p>1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産 園地登録園制度とシートマルチ栽培管理の徹底によりブランド率の高位維持に努める。また、異常気象に対応した技術の検討、病害虫対策の徹底を図る。新たな選果機導入事業の支援を行うとともに家庭選果の省力化体系技術の検討を行う。</p> <p>2. 「西海みかん」の産地の継続 産地の維持発展を図るために、計画的な新改植、園内道整備、省力機械整備により作業環境改善の推進と、農地中間管理機構などを活用した担い手への農地流動化を進める。また、宮地区基盤整備事業の実現に向けて「宮長地区農地整備推進協議会」の活動を支援する。</p> <p>【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】</p> <p>1. JA、佐世保市と連携して、かんきつ部会の役員・支部長並びに各委員会（生産・販売・産地振興）で検討し、活動を展開した。</p>			
<p>【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）</p> <p>1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産</p> <p>(1) 年間2回の講習会を実施し、高品質果実生産、安定生産対策を実施した。また、指定園登録制度の実施に伴う圃場確認などを支援した。</p> <p>(2) 本年は7、8月の高温干ばつで果実肥大の遅れや落葉がみられた。河川などからの水源確保を支援した。</p> <p>(3) 温暖化に対して植物成長調節剤を用いた浮皮対策試験を実施した。</p> <p>(4) 腐敗果対策を強化し、消費者ニーズに対応した選果機導入について計画作成など支援した。また、家庭選果省力化の実証にむけて果樹・茶研究部門と連携し「革新的技術開発・緊急展開事業」（平成28年～30年）に取り組み、全部会員に家庭選果状況アンケート調査などを実施した。</p> <p>(5) 労力支援では、新たな労働力として、市内の2大学でのアルバイトの募集、雇用募集チラシのアーケードでの配布や直売所など集客施設の設置、また、農福連携の取り組みとして福祉サービス事業所を対象に収穫技術研修会を開催し、可能性を検討した。</p> <p>2. 「西海みかん」の産地の継続</p> <p>(1) 8月の高温干ばつに対応して、果樹経営支援対策事業、県単独灌がい応急対策事業を活用し、かん水設備の導入を支援した。</p> <p>(2) 生産対策講習会に併せて各種事業の推進を行うとともに、事業計画作成を支援した。</p> <p>(3) 宮地区の基盤整備については、4月に宮長地区農地整備事業推進協議会役員会を開催し、年間の計画を協議。また、各丁区において、定期的に農地交渉等の進捗の検討会を開催した。</p>			



〈家庭選果省力化機械〉

<p>【普及活動の成果】</p> <p>1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産 (1) 28年産みかんはブランド率80%（1月31日現在）と、前年を下回る見込み。しかし、全国的に数量減の状況で販売額は増加し、過去最高の販売額となる見込み。販売数量：9,481t(前年比107%) 単価318円(前年比105%)（2月16日現在） (2) 産地パワーアップ事業を活用し、水腐れなどを選別するみかん選果機が導入された。</p> <p>2. 「西海みかん」の産地の継続 (1) 果樹経営支援対策事業を活用して改植・高接ぎや園内道、改植・高接ぎ、かん水設備が整備された。 (2) 未来を創る園芸産地事業でマルチ巻上げ装置整備、無加温ハウスのリノベーション事業が実施された。 (3) 産地パワーアップ事業 省力機械（SS、肥料散布機など）や被覆資材が整備された。 (4) 宮基盤整備について基盤整備にかかる調査費の予算が確保され、11月から基盤整備事業計画作成、水源調査、土壌調査が開始された。</p> <p>【対象の声】</p> <p>1. 様々なことに支援してもらい、助かっている。今後も続けて欲しい。天皇杯も受賞することができた。感謝している。(させば地区かんきつ部会長) 2. 技術的には習得してきた。連年安定生産ができるようにしていきたい。労力支援は有難い。助かっている。(松浦地区かんきつ部会長)</p> <p>【今後の課題】</p> <p>1. 「西海みかん」ブランド商材の安定生産 (1) 温暖化など異常気象の中でも、高品質果実の安定生産が産地の維持発展には不可欠である。園地登録園制度、浮皮対策、腐敗果対策を徹底する。 (2) 家庭選果の省力化では、家庭選果状況アンケートを踏まえ、今後も果樹・茶研究部門と連携して選果精度や受け入れ体制構築の検討を行なう。 (3) 雇用労力の確保は個々の農家の規模拡大を図るうえでは大きな課題である。一つの対策では厳しいため、多様なチャンネルで確保を図る。</p> <p>2. 「西海みかん」の産地の継続 (1) 今後も改植、園内道、防風ネット、かん水設備、被覆資材、省力化機械など導入事業の作成支援を行い、高品質果実生産、コスト省力化への取組を支援する。また、新植について果樹経営支援対策事業の活用を検討する。 (2) 無加温越冬みかんの新規・拡大希望者に対して、新構造改善加速化事業によるハウスの導入支援を行なう。 (3) 宮地区基盤整備は、平成30年度事業計画認定に向けて、農地中間管理機構を活用した農地の貸し出し手続きを進める。また、区画整理区におけるみかん植栽計画、大苗事業計画を進める。</p> <p>【成果の活用及び普及活動上の留意点】</p> <p>1. 家庭選果省力化ではまだ機械の精度の面や荷受体制の構築など課題が多い。 2. 今回の基盤整備は地主と受益者が一致しない計画で、農地の確認、入植者の決定、地主の同意など多くの課題があり、問題解決には強力なリーダーが必要である。</p>	
発表・参考資料	